



まちづくりは、 最初の一步が難しい。

同じ想いの人に出会えない

イベントに人が集まらない



素敵な想いも、一人ではなかなか形にならない。まちづくりの最初の一步は仲間づくり。でもその仲間づくりが意外と難しい。大切なのは、活動の存在を知るきっかけがあるかないか。「たまたまチラシを見て」「たまたまイベントに参加して」そんな“たまたま”を狙って生み出す。

(令和6年度第1回まちづくりスキルアップ講座のチラシより抜粋)

まちづくりの支援を行う中でたびたび耳にする“広報”に関する悩み。「その解決の一助になれば。」という想いで、令和6年7月13日、第1回まちづくりスキルアップ講座『広報・PRの思考法を学ぶ』を開催しました。想定を大きく上回る申し込みがあり、大変多くの方に受講していただきました。

講師は、数少ない公的なPR資格である「PRプランナー（公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会認定）」等、多数の経歴をお持ちの米山 哲司氏。

ご自身の活動においても、NPO法人やソーシャルビジネスの運営等の経験の中で、公益的な活動の広報の難しさと重要性を認識していらっしゃいます。

レイアウトがカッコいいだけで、 誰にも刺さらないチラシになっていないか。

「私はチラシづくりは教えません。」

その言葉から始まった本講座。ドキッとする内容に、前のめりに耳を傾けてしまいます。

「たくさん人が来るのが目的ですか？本当の目的は、質や魂を伝えることではないですか？」米山氏の言葉に、参加者の誰もが、これまで作ったチラシや、投稿したSNSなど、自身の過去の広報を振り返ったのではないのでしょうか。



つついっ使ってしまう「どなたでも～」という言葉。

米山氏に言わせれば、それは「誰でもいいから結婚してください。」と同じです。講義では「私はこの想いを誰に届けたいのだろうか、誰に何をしてほしいのだろうか。」そう考えることの重要性を学びました。

ターゲットを整理して、自分がイメージした人に情報が届けば、それ以外の人には届いていなくてもいいのだと思うと、コトバの選び方や発信方法も大きく変わってくる気がします。

「どなたでも」と書いても、誰も来ない。
「あの人に届けるんだ!」という想いで。

講座を終えて...

広報にも、練習が必要なんだ。

「すぐにはできませんよ。」その言葉を聞いて、ほっとすると同時に、今日学んだことを忘れず意識して、練習しなくてはと思いました。

これまでどおりの広報を行っていても、いつまで経っても人もお金も足りないまま……。

仲間になってほしいあの人、イベントに来てほしいあの人を頭に思い浮かべ「あの人に届けるんだ!」という想いで広報を考えると、それ以外にも本当の想いに共感してくれる仲間が見つかっていくのではないかと感じました。

いつもは“伝える”ことばかり気にしていましたが、“つながる”ことの重要性に気がきました。

